



2005 年度前期

「学生による授業評価アンケート」全学集計結果(分析編)

2005 年 12 月

法政大学 FD 推進センター

1. 分析の概要と用語の定義

この報告は、2005 年度前期の授業評価アンケート調査の結果を、いくつかのテーマに絞って、より詳しく分析したものです。分析テーマとしては、これまで多くの要望が出されているものを中心に、つぎの 5 つを設定しました。

- (1) 質問項目間の相関関係の分析
- (2) 授業の履修理由による分析
- (3) 授業の受講者数による分析
- (4) 授業の出席率による分析
- (5) 授業の成績評価による分析

また、特に、(4)、(5)の分析を行うに際して、授業評価アンケートデータ以外に教務システムの情報を用いて、以下の変数を定義し、分析に用いました。

出席率 1: 学部の授業評価アンケートの問 2 の回答 (1 = 「ほぼ 0%」、…、5 = 「ほぼ 100%」の 5 件法)

出席率 2 = アンケート回答者数 / 受講者数

出席率 3 = アンケート回答者数 / (受講者数 - E 評価者数)

成績評価 1 = (A 評価者数 + B 評価者数 + C 評価者数) / 受講者数

成績評価 2 = (A 評価者数 + B 評価者数 + C 評価者数) / (受講者数 - E 評価者数)

成績評価 3 = A 評価者数 / (受講者数 - E 評価者数)

成績評価 4: A 評価 = 3、B 評価 = 2、C 評価 = 1、D 評価 = 0、E = 評価 0 とした、授業毎の加重平均点

上の変数のうち、出席率 1(学部のみ)は、学部の授業評価アンケートの問 2 の回答をそのまま用いたものです。出席率 2(出席率 3 も同様)は、本来、「アンケート回答率」(= アンケート回答者数 / 出席者数)と「出席率」(= 出席者数 / 受講者数)を掛け合わせたものですが、この報告では、アンケート回答率が 1 に近いとの想定の下、「出席率 2(または 3)」と呼ぶことにします。なお、出席率 3 で、分母に「受講者数 - E 評価者数」を用いたのは、受講登録者の中には、履修の意志が希薄で試験を受験しない者も含まれていることを考慮したものです。

成績評価 1(成績評価 2 も同様)は、受講者に占める単位取得者の割合、成績評価 3 は、E 評価者を除いた実質的な受講者に占める A 評価者の割合、成績評価 4 は、GPA(Grade Point Average)などで用いられる換算方式にならって、A ~ E の評語分布を 0 ~ 3 点の点数に換算した指標です。

授業の種類毎にこれら指標の平均値を示すと表 1 の通りです。アンケート回答者の自己申告による出席率 1 に比べ、出席率 2、3 の指標では、講義の出席率が語学等に比べかなり低いことがわかります。また、成績評価指標に関しても、実技、実験等が高く、講義が低いといった科目特性による違いが見られます。

表1 授業種類別、各種出席率、成績評価指標の平均値

授業種類	回答数	出席率 1	出席率 2	出席率 3	成績評価 1	成績評価 2	成績評価 3	成績評価 4
学部計	118,068	4.52	0.649	0.688	0.826	0.863	0.426	1.96
講義	74,224	4.39	0.548	0.602	0.790	0.845	0.387	1.82
演習	6,436	4.83	0.790	0.801	0.907	0.914	0.521	2.28
語学	30,975	4.72	0.850	0.874	0.904	0.910	0.441	2.10
実験	2,408	4.84	0.825	0.847	0.908	0.935	0.683	2.51
実技	4,025	4.72	0.816	0.823	0.954	0.959	0.762	2.68
大学院計	3,836	-	0.767	0.811	0.910	0.981	0.659	2.33

2. 質問項目間の相関関係の分析

授業評価アンケートでは多くの質問(学部共通質問は 12、大学院共通質問は 10)を尋ねていますが、それら質問の間関係はどうなっているのかを見るために、相関係数を算出しました。相関係数とは、ある変数 X と別の変数 Y の間にどの程度直線的な増減関係があるかを示すもので、-1 から 1 の間の値をとります。そして、1 に近い場合は、X が増えれば Y も増えるという関係、-1 に近い場合は、X が増えれば Y は減るという関係、そして 0 に近い場合は、X と Y は無相関であることをそれぞれ示しています。

表2 質問項目間の相関係数(学部)

	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	問 11	問 12
問 2. 授業への出席状況	1.000										
問 3. 授業への取り組み	0.415	1.000									
問 4. 授業に集中しやすい環境	0.180	0.496	1.000								
問 5. 授業内容への興味	0.139	0.605	0.493	1.000							
問 6. シラバスに沿った運営	0.166	0.502	0.515	0.645	1.000						
問 7. 教え方の熱意	0.115	0.472	0.488	0.638	0.673	1.000					
問 8. 教え方のわかりやすい工夫	0.100	0.509	0.486	0.699	0.664	0.755	1.000				
問 9. 使用教材の適切さ	0.120	0.472	0.462	0.628	0.644	0.613	0.689	1.000			
問 10. 学生の参加意欲を促す工夫	0.136	0.531	0.516	0.656	0.615	0.675	0.747	0.684	1.000		
問 11. 授業内容の理解度	0.140	0.564	0.447	0.710	0.601	0.589	0.709	0.665	0.676	1.000	
問 12. 授業の総合的満足度	0.137	0.576	0.503	0.766	0.660	0.706	0.793	0.702	0.760	0.779	1.000

注: 便宜的に相関係数が 0.7 以上の場合、該当セルに色づけをした。

表 2 は、学部アンケートに関する質問間の相関係数を示しています。学生の授業への出席状況を尋ねた問 2 は他の質問とそれほど強い関係は見られませんが、授業そのものの内容・方法について尋ねた問 5 から問 12 は、相互の相関係数がいずれも 0.5 を超えています。特に、問 7(教え方の熱意)と問 8(教え方のわかりやすい工夫)、問 8(教え方のわかりやすい工夫)と問 10(学生の参加意欲を促す工夫)、問 11(授業内容の理解度)と問 5(授業内容への興味)、問 8(教え方のわかりやすい工夫)の間には高い正の相関が見られます。

また、問 12(授業の総合的満足度)と相関が高い質問項目としては、問 8(教え方のわかりやすい工夫)、問 11(授業内容の理解度)、問 5(授業内容への興味)、問 10(学生の参加意欲を促す工夫)などがあげられます。授業内容をどれだけ理解できたかが満足度に影響する重要な要因であり、理解度を高めるためには、教員のさまざまな工夫や学生の興味が重要であるという構造が浮かび上がっています。

大学院アンケートに関する結果は表 3 の通りです。多くの組み合わせで相関係数は 0.5 を超えており、質問間の相関関係は概して高いと言えます。このうち、問 10(授業の総合的満足度)と相関が高い質問項目としては、問 9(有用な知識の獲得)、問 3(授業内容への興味)、問 8(キャリア形成への意義)、問 5(教え方の熱意)などがあげられます。学生の興味が重要である点は学部と共通ですが、学生のキャリア形成にとって有用な内容かどうかは満足度に強く影響している点は大学院に特徴的です。

表 3 質問項目間の相関係数(大学院)

	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
問 1. 授業への取り組み	1.000									
問 2. 授業の予習・復習	0.624	1.000								
問 3. 授業内容への興味	0.597	0.467	1.000							
問 4. 授業内容の理解度	0.543	0.489	0.629	1.000						
問 5. 教え方の熱意	0.492	0.366	0.635	0.529	1.000					
問 6. 学生の質問等への対応	0.486	0.400	0.596	0.524	0.703	1.000				
問 7. 使用教材のレベル	0.467	0.406	0.581	0.575	0.531	0.560	1.000			
問 8. キャリア形成への意義	0.522	0.401	0.661	0.534	0.635	0.620	0.617	1.000		
問 9. 有用な知識の獲得	0.570	0.459	0.713	0.604	0.639	0.623	0.619	0.747	1.000	
問 10. 授業の総合的満足度	0.593	0.454	0.742	0.617	0.722	0.667	0.638	0.723	0.762	1.000

注:便宜的に相関係数が 0.7 以上の場合、該当セルに色づけをした。

3. 授業の履修理由による分析

学部アンケートの問 1 では、授業の履修理由について尋ねていますが、この履修理由と授業の総合的満足度や出席率、成績評価との関係を分析してみました。

まず、授業の総合的満足度(学部アンケートの問 12)の点数分布と平均点を授業の履修理由別に示したのが表 4 です。「シラバスを見て授業内容に関心を持ったから」という学生の満足度は 4.0 点と高く、授業満足度と学生の興味との間に高い相関関係があるという前項の結果と符合しています。一方、「時間割の都合から」、「単位がとりやすいと思ったから」という学生の満足度は相対的に低くなっています。

表 4 授業の履修理由別授業満足度(学部)

授業の履修理由(M.A.)	有効回答数	問 12. 授業の総合的満足度(有効回答の比率、%)					平均値	標準偏差
		5.	4.	3.	2.	1.		
1. 必須・選択必修科目	54,366	24.0	39.2	24.0	7.7	5.1	3.69	1.07
2. シラバスを見て関心持つ	30,683	29.8	47.1	17.5	4.0	1.5	4.00	0.88
3. 先輩・友人の薦め	5,758	29.5	40.3	22.1	5.4	2.7	3.89	0.98
4. 時間割の都合	26,515	14.8	39.0	30.9	9.9	5.4	3.48	1.03
5. 単位の取りやすさ	8,087	19.1	37.5	29.1	8.8	5.5	3.56	1.07
6. その他	3,776	33.8	37.2	17.8	6.2	5.0	3.88	1.10
計	110,210	23.1	40.1	24.7	7.5	4.6	3.70	1.05

つぎに、授業の履修理由によって出席率、成績評価に違いがあるかどうかをみたのが表 5 です。いずれの出席率指標、成績評価指標とも、「必須科目・選択必修科目だから」という履修理由の場合、高いという結果になっています。一方、それらのほとんどの指標が低いのは「時間割の都合から」です。また、「単位がとりやすいと思ったから」という履修理由では、出席率がやや低く、成績評価がやや高いという傾向が見られます。

表 5 授業の履修理由別、出席率および成績評価(学部)

授業の履修理由(M.A.)	出席率 1	出席率 2	出席率 3	成績評価 1	成績評価 2	成績評価 3	成績評価 4
1. 必須・選択必修科目	4.67	0.746	0.770	0.865	0.881	0.447	2.06
2. シラバスを見て関心持つ	4.50	0.563	0.620	0.793	0.854	0.421	1.89
3. 先輩・友人の薦め	4.30	0.582	0.627	0.824	0.869	0.446	1.98
4. 時間割の都合	4.37	0.552	0.607	0.783	0.842	0.383	1.81
5. 単位の取りやすさ	4.28	0.572	0.609	0.837	0.875	0.450	2.01
6. その他	4.55	0.648	0.691	0.813	0.853	0.437	1.97
計	4.52	0.649	0.688	0.826	0.863	0.426	1.96

4. 授業の受講者数による分析

学部ではしばしば「大人数授業」の問題が指摘されますが、表6、図1、図2は、授業の受講者数と授業の総合的満足度(学部アンケートの問12)、出席率、成績評価の関係を示しています。

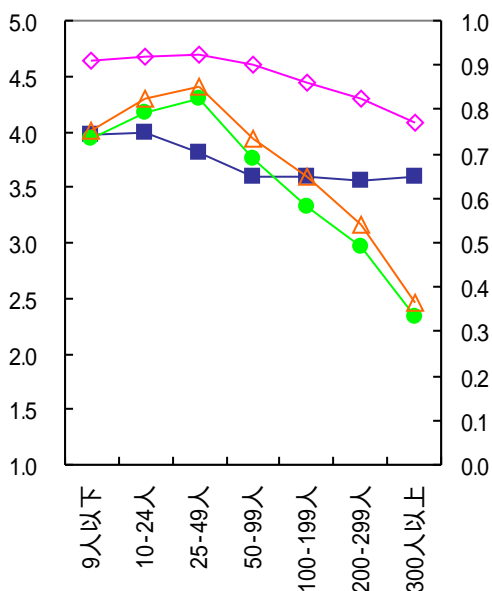
まず、授業満足度は、受講者数が多くなると下がる傾向があり、50人規模が一つの境目となっているように見えます。また、出席率も50人規模を境に低下傾向が見られ、履修登録者が300人以上の授業の出席者(正確にはアンケート回答者)は3分の1にとどまっています。

成績評価については、単位取得者の割合を示す指標1、2は「25-49人」規模がピークとなっており、A評価など成績評価の高さを加味した指標3、4は、受講者数が多くなると下がるという傾向が明瞭です。後者については、少人数授業の教育効果の高さ、評価の「寛大化傾向」などの解釈が可能です。

表6 授業の受講者数別、授業満足度、出席率および成績評価(学部)

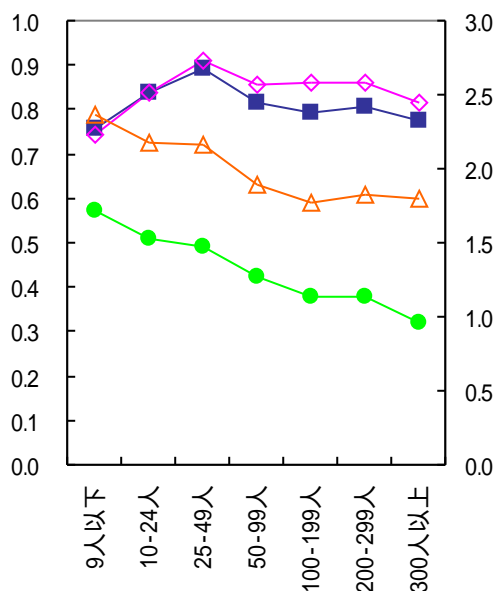
受講者数 カテゴリー	回答数	授業の総合 的満足度	出席率1	出席率2	出席率3	成績評価1	成績評価2	成績評価3	成績評価4
9人以下	1,622	3.98	4.64	0.736	0.751	0.759	0.743	0.572	2.36
10-24人	8,844	3.99	4.67	0.792	0.825	0.837	0.839	0.511	2.18
25-49人	37,255	3.81	4.70	0.823	0.853	0.892	0.910	0.493	2.16
50-99人	18,887	3.60	4.61	0.691	0.735	0.816	0.856	0.424	1.89
100-199人	26,897	3.59	4.45	0.582	0.648	0.793	0.859	0.380	1.77
200-299人	11,968	3.56	4.30	0.492	0.541	0.806	0.859	0.378	1.83
300人以上	12,595	3.60	4.08	0.332	0.365	0.774	0.815	0.318	1.80

図1 受講者数別、授業満足度、出席率(学部)



■ 授業の総合的満足度(左目盛)
◇ 出席率1(左目盛)
● 出席率2(右目盛)
△ 出席率3(右目盛)

図2 受講者数別成績評価(学部)



■ 成績評価1(左目盛)
◇ 成績評価2(左目盛)
● 成績評価3(左目盛)
△ 成績評価4(右目盛)

5. 授業の出席率による分析

表7は、出席率と授業の総合的満足度(学部アンケートの問12、大学院アンケートの問10)の相関係数を示したものです。出席率1(学部アンケートの問2)は、授業評価アンケート回答者の自己評価による出席状況で、相関係数は0.137となっています。これは決して高い値ではありませんが、図3のようにグラフ化してみると、両者には授業満足度1ポイントほどの幅で(出席が「ほぼ0%」の満足度が2.9に対し、「ほぼ100%」の満足度は3.8)、正の相関関係のあることがわかります。

一方、出席率2、3に関しては、相関係数は約0.08と低く、図4のようにグラフ化してみても、あまり明確な関係は見られません。この理由としては、出席率2、3は授業欠席者(必然的に授業評価アンケートには回答していない)も考慮した指標であるため、授業出席者(正確には授業評価アンケート回答者)のみによる授業満足度評価と必ずしも対応していないという事情が考えられます。

表7 出席率と授業満足度との相関係数

授業種類	出席率1	出席率2	出席率3
学部計	0.137	0.081	0.084
講義	0.134	0.051	0.062
演習	0.065	0.086	0.055
語学	0.101	-0.006	-0.021
実験	0.154	-0.041	0.000
実技	0.136	0.039	0.025
大学院計	-	-0.003	0.028

図3 出席率1と授業満足度(学部)

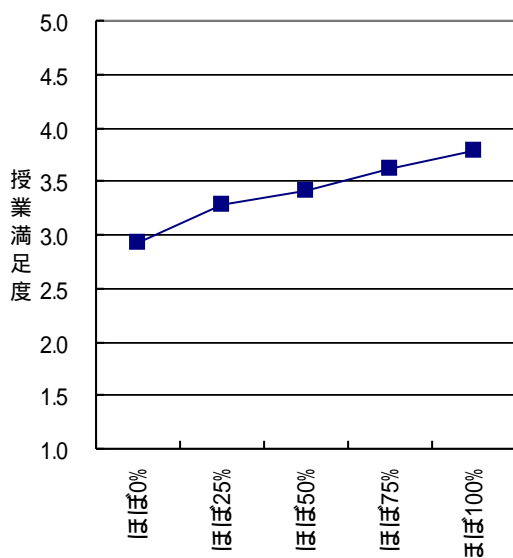
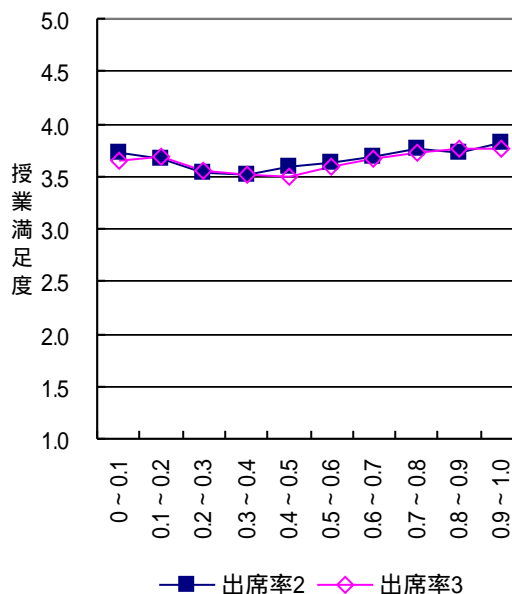


図4 出席率2、3と授業満足度(学部)



6. 授業の成績評価による分析

表8は、成績評価と授業の総合的満足度(学部アンケートの問12、大学院アンケートの問10)の相関係数を示したものです。学部の場合、受講者に占める単位取得者の割合を示す成績評価1、成績評価2の相関係数は約0.08とそれほど高くありませんが、A評価など成績評価の水準も加味した成績評価3、

成績評価 4 の相関係数は約 0.19 とやや高い値となっています。一方、大学院では、成績評価 3 を除いてほとんど無相関と言えます。

図 5、6 は、学部の場合の成績評価指標と授業満足度の関係をグラフ化したものですが、成績評価 4 の場合、授業満足度 0.7 ポイントほどの幅で(成績評価 4 が「0～0.5」の満足度が 3.4 に対し、「2.5～3.0」の満足度は 4.1)、正の相関関係にあることがわかります。

ただし、このような全体としての相関係数は、データにいくつか異質なグループが含まれている場合、ミス・リーディングな側面があります。すなわち、何らかの理由(例えば受講者数が少数)で成績評価と授業満足度がともに高い科目群と、(受講者数が多数で)成績評価と授業満足度がともに低い科目群がある場合、全体では正の相関関係が見られますが、それぞれの科目群の中では必ずしも正の相関は見られないということがあり得ます。実際、表 8 には、授業種類別の相関係数も示していますが、わずかな例外(演習の成績評価 1 と 4)を除いて、科目種類別の相関係数は全体の相関係数を下回っています。また、受講者数 50 人以上の学部授業に限定した場合も、成績評価指標と授業満足度の相関係数は、学部授業全体の場合と比べ低下しています。

表 8 成績評価と授業満足度との相関係数

授業種類	成績評価 1	成績評価 2	成績評価 3	成績評価 4
学部計	0.082	0.087	0.186	0.192
講義	0.067	0.071	0.157	0.152
演習	0.104	0.066	0.149	0.212
語学	0.047	0.085	0.145	0.151
実験	-0.089	-0.017	0.087	0.011
実技	0.001	-0.046	0.108	0.110
学部計(受講者 50 人以上)	0.069	0.076	0.145	0.138
大学院計	-0.002	0.093	0.127	0.090

図5 成績評価1、2、3と授業満足度(学部)

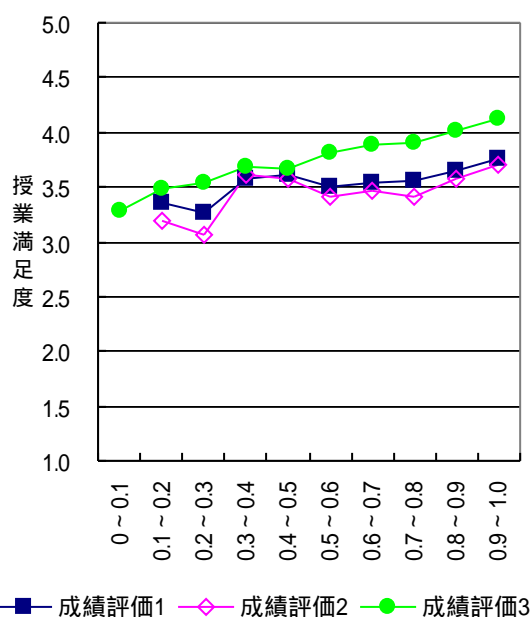
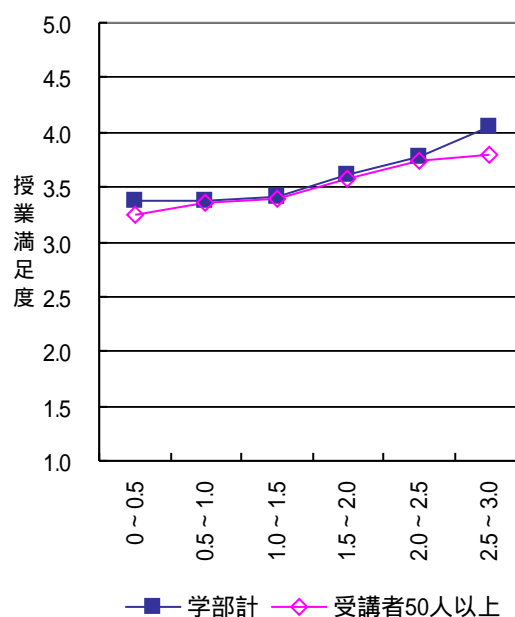


図6 成績評価4と授業満足度



以上の結果から、大学院では、成績評価と授業満足度の間にほとんど相関関係は見られないが、学部では多少の正の相関関係が見られること、ただし、少人数授業を除いた場合、そうした関係は弱まることからわかります。成績評価と授業満足度の間に正の相関関係が見られる一つの理由として、少人数授業を中心に、学生と教員の間にある種の共感感情(rapport)が生じ、それが教員の学生への寛大な成績評価と、学生の授業に対する高めの満足度評価をもたらす、と考えられます。さらに、少人数授業を除いても、なお若干の相関関係が見られる理由としては、学生の授業への満足度が高いとは、学生の授業内容への理解度が高いということであり、結果的に成績評価も高くなる、教員の成績評価がそもそも甘い授業に対して、学生は高い満足度評価をする、といった仮説が考えられます。これらの仮説を識別するためには、学生の成績評価に関する真に適切な指標は何かを考案する必要があります。

7. 分析の結論

この報告で設定した5つのテーマに関する分析結果をまとめると、次の通りです。

(1) 質問項目間の相関関係の分析

- ・ 学部では、「授業の総合的満足度」と相関が高い項目として、「教え方のわかりやすい工夫」、「授業内容の理解度」、「授業内容への興味」、「学生の参加意欲を促す工夫」などがあげられる。したがって、授業内容をどれだけ理解できたかが満足度に影響する重要な要因であり、理解度を高めるためには、教員のさまざまな工夫や学生の興味が重要と言える。
- ・ 大学院に関しては、学生の興味が重要である点は学部と共通だが、学生のキャリア形成にとって有用な内容かどうか満足度に強く影響している。

(2) 授業の履修理由による分析

- ・ 「シラバスを見て授業内容に関心を持ったから」という学生の授業満足度は高いが、「時間割の都合から」、「単位がとりやすいと思ったから」という学生の授業満足度は相対的に低い。

(3) 授業の受講者数による分析

- ・ 受講者数が多くなると、授業満足度、出席率、成績評価の水準(成績評価 3、4)は低下する傾向がある。

(4) 授業の出席率による分析

- ・ 授業評価アンケート回答者の自己評価による出席状況(出席率 1)と授業満足度の間には、正の相関関係が見られる。一方、出席率 2、3 に関しては、ほとんど無相関である。

(5) 授業の成績評価による分析

- ・ 大学院では、成績評価と授業満足度の間にほとんど相関関係は見られないが、学部では多少の正の相関関係が見られる。ただし、少人数授業を除いた場合、相関関係は弱まる。

- ・ 本報告に関するお問い合わせやご意見は、法政大学 FD 推進センターまでお寄せ下さい。
〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1
電話：03-3264-4285 / 9929 FAX：03-3264-4123 E-メール：fd-jimu@hosei.ac.jp
- ・ また、FD 推進センターの活動については、<http://www.hosei.ac.jp/fd/> をご覧下さい。